議　　長　次に、質問順位　４番　６番議員　灰岡裕美君。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　おはようございます。灰岡裕美です。

通告に従いまして「幼稚園・保育園跡地の利用について、その後の経過と今後の方針を問う」、「町長の２期８年の政治成果と今後を問う」の２件について質問いたします。

最初に「幼稚園・保育園跡地の利用について」の質問を始めます。

この質問につきましては、これまで私自身や同僚議員が質問を重ねてまいりました。

２年前の３月に閉園しました和木幼稚園・保育園の跡地利用について、令和元年９月定例会の私の一般質問の際、議会の終了後速やかに検討委員会を立ち上げるよう指示をしているとの回答をいただきました。

また、昨年の９月定例会の同僚議員の質問の際に、正式名「PRE（公的不動産）活用検討委員会」の内容についての返答をいただいております。

その時伺った検討委員会のメンバーの構成を申しますと、副町長・企画総務課長・税務課長・保健福祉課長・住民サービス課長・教育委員会事務局長・都市建設課長の７名と聞いております。

また、委員会の補助機関として、中堅職員５名で構成するワーキンググループを置き、活用方針の調査研究及び協議検討をするとの回答を得ております。

まずは、最初の質問、検討委員会についての質問から始めたいと思います。

伺います。跡地利用の検討委員会は、これまで何回開催されたのですか。年度毎に開催された月もお答えをお願いいたします。

議　　長　村岡都市建設課長。

村岡都市建設課長　ＰＲＥ活用検討委員会の開催回数は、全６回開催しております。主な会議内容は、ワーキンググループの検討内容の報告を受け、それを基に各委員の意見交換を行うという形で委員会を開催いたしました。年度別の開催月につきましては、令和元年度は１０月、１２月、令和２年２月の３回、令和２年度は、６月、８月、令和３年２月でございます。

議長　灰岡裕美君。

灰岡議員　今、伺いましたワーキンググループの会議、研究等を、報告を受けて検討委員会を開催されたということなんですが、それではワーキンググループの会議、研究は何回開催されたのでしょうか。先程と同じように年度毎に開催された月も教えてください。

議長　村岡都市建設課長。

村岡都市建設課長　ワーキンググループの会議、調査、研究、協議等の回数につきましては、随時必要性に応じて開催しており、正確な回数は把握しておりませんけれども、多い月では月３回以上、計２０回以上程度は開催しております。

議長　灰岡裕美君。

灰岡議員　月２０回以上、しっかり検討していただいているのと思うのですが、それではどのような調査研究をされてきたのか質問いたしたいと思います。

議長　村岡都市建設課長。

村岡都市建設課長　調査研究等その協議の内容につきましては、サウンディング型市場調査開催のための基礎資料の作成等の準備作業や、実際のサウンディングの実施あるいは企業からの個別提案の聞き

取り、その後の内容の検証、その整理等委員会開催に向けての資料作成などを行っております。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　今、課長のご回答にありましたように、ワーキンググループがされたサウンディング型市場調査の内容について教えてください。

議　　長　村岡都市建設課長。

村岡都市建設課長　官民連携手法による活用方法の検討につきましては、昨年９月までは、サウンディング型市場調査を２回開催し検討を行っておりますが、その内容は昨年の９月議会で答弁したとおりでございます。

その後のサウンディング型市場調査という形式ではなくてですね、個別に企業からの提案をワーキンググループがお聞きし、それを検証する形で行っております。

企業数社からの提案として、商業用地やワーケーション施設などの提案がございました。

企業からの提案の具体的な内容につきましては、その企業がですね、独自で調査された内容で、非公開を条件として提案されたものであり、企業秘密となる事項も多く含まれており、公開することができませんのでご理解をお願いいたします。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　以前の、前回の一般質問の際に、企業からの提案は非公開の場合と公開の場合がある。サウンディング調査も同様ということはお聞きしておりましたが、以前の質問の際にも回答いただきましたが、幼稚園・保育園の跡地は、本町の貴重な財産であり厳しい財政事情の中、慎重な調査研究を検討した上で、方向性を示したいとのご回答がありました。

昨年の９月定例会の同僚議員の質問の際に、１つは、宅地として売却する場合、もう１つは、官民連携手法による活用方法の場合等の方向性を検討していると聞いております。

質問です。この事業の方向性は、定まったのでしょうか。また主体は、どこになるのでしょうか。教えてください。

議　　長　村岡都市建設課長。

村岡都市建設課長　ＰＲＥ活用検討委員会は、主に旧幼稚園跡地の今後の活用方針について協議検討を行い、本年度末を目安に町長へ提言をすることを目的として検討を進めてまいりました。

検討協議した内容については、本年２月に提言書として取りまとめたところでございますが、昨今の社会情勢が大きく変化している状況の中で、明確な方向性を示すということはできませんでした。

提言のまとめといたしましては、『幼稚園跡地については「宅地売却案」「民間資金を活用した整備案」の双方から検討を進めてまいりましたが、昨年３月からの新型コロナウイルス感染症の拡大により社会情勢が大きく変化し、これまでの経験則では測れない状況となった。このことから、この感染症の終息が見えない現段階においては、拙速な方針を示すべきではないと判断し、これまでの検討内容の結果と各委員の意見を列記するにとどめる、今後は、新しい生活様式やデジタル化の推進、近隣の宅地開発の状況などの社会情勢を踏まえ、引き続き検証していくことが望ましい。』という提言内容となっております。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　本年度末に町長への報告、提言をまとめて提出されるということ、提出されたということですかね。お聞きしました。

その提言内容、報告内容というのは私たち町民も開示していただけるのでしょうか、お伺いいたします。

議　　長　村岡都市建設課長。

村岡都市建設課長　先程の答弁でですね、その提言の内容については先程お示しさせていただきました。ですから最終的に方向性をですね、現時点で出すのは拙速ということになっておりまして、今後のデジタル化とかですね、そういった新しい生活様式の状況を踏まえてですね、引き続き検証する方が望ましいという形になっております。

ですから、そういった事の内容でございます。提言書の内容につきましては、冊子はあるんですけれども、その辺はまあ公開できる部分をですね、ある程度取りまとめてですね、議員の皆さまには機会があればですね、その内容についてはお示ししたいと考えております。

先程質問ありました、ですからこういう状況でありますので、主体がどこになるかということも現時点では決まっておりません。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　今、報告書の内容を詳しく説明していただきました。主体はまだ決まってない、ここにもコロナウイルス感染症の影響が出ているということで納得いたしましたが、幼稚園・保育園の閉園から、早くも２年が過ぎております、以前の一般質問の回答によりますと、「まず、旧幼稚園園舎については、解体は 2020 年以降を考えている。けれども解体の時期、実施方法、主体等先程伺った手法等ですね、検討委員会で考えていく」、また「保育所については今後の活用方法を検討委員会で考えていき、その上で解体をするのか、現在の建屋を活用するのか検討していく。すなわち、保育所の解体は決定しているわけではない」と一昨年の私の質問に答えていただいております、

先程から何度も出てきます検討委員会、これは跡地の活用と共に含まれる解体の方向性も含まれているのでしょうか、お伺いいたします。

議　　長　村岡都市建設課長。

村岡都市建設課長　解体をですね、例えばそういった業者がやるのか、町が行って更地にしていくのか、そういったことについてもですね、いろんな手法がありますので、これについて同時に検証していく必要があると考えております。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　解体についても跡地活用の中に含まれておりますので、今後も検討委員会で検証していくということで納得いたしました。

最後に、町長に質問します。幼稚園・保育園の跡地利用・活用についてはどのように決定の方向に向かっているのでしょうか。先程から何度も検討委員会の方向性を伺っているので、ちょっとこの質問はそぐわないかもしれないのですが、また、今後どのようなスケジュールでこの事業を進めていくのか、タイムスケジュールを町長のお考えの中にありましたらお伺いしたいと思います。

議　　長　和木町長。米本町長。

米本町長　灰岡裕美議員のご質問にお答えをさせていただきます。

今後の方針と進め方はということでございますが、先程来、課長の方からＰＲＥの活用検討委員会の提言としては、具体的な方針が示されなかったと、私としてもこれは、これを待って行動すべきというふうに考えておりましたので、大変残念な気持ちでもございます。新型コロナウイルス感染症により全世界が不安定な状況において、ＰＲＥの判断は致し方ないのかなというふうに理解をしておるところでございます。

また、サウンディング調査により官民協力による幾つかの事業についても検討されたということでございます。これがというご提言はございませんでした。中にはこういう事をやってみればというものもありましたけど、採算性等を考えますとなか

なかうまくいかない、これも現在のコロナ禍において、各種企業の方々が新規事業というものに対しては少し躊躇されている部分が大きいのかなというふうに考えております。

宅地としての売却につきましては、少し和木町では地価の上昇がみられたところではございますけど、全く先行きが見えないということでございます。また岩国駅近くの装束地区におきまして、大規模な宅地開発が今進められております。そのことから現時点では今少し様子を見る方が得策ではないかというふうに考えているところでございます。

今後、少しお時間をいただくと思いますが、先程のＰＲＥ検討委員会等は旧幼稚園跡地を基にいろいろ検討したということでございますが、少し時間いただくと思いますけどもアフターコロナや、デジタル化の状況を考えつつ、より小規模であります保育所跡地から検討してみるのも１つの手かなというふうに私は思っているところでございます。このことについて少し考えてみたいなという方向で進めて参りたいと思っております。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　ただ今、町長の跡地活用に対するお考えを伺いました。ここでもコロナ禍による景気の情勢の不安定な事がやはり影響を得ているのだなと納得いたしました。

１０.５８平方キロメートルの面積の本町に取りまして、中心部に位置を占めております幼稚園・保育所の跡地の活用は、町民にとっても大きな注目の的です。

人口減少の為の施策を取るのか、年齢を問わず町民のみなさんの集う場所づくりになるのか、跡地活用に対する興味は尽きません。

今後の動向を注視すると共に、私たち議員は町民のみなさまの声を届けるために尽力していく覚悟です。

以上で、この質問を終わります。

続けて次の質問に移りたいと思います。

「米本町長の２期８年の政治成果と今後を問う」について、一般質問を始めます。

本年の９月に米本町長の２期８年の任期が満了いたします。

１期目の任期当初には、平成２５年の大竹下水道圧送管破損事故や平成２６年の８・６岩国和木豪雨災害など大きな案件が立て続けに発生いたしました。その為に財政的な負担や人的な負担も大きく、町長が考えておられた町政に対する目算を大きく変えざるを得なかったのではないでしょうか。

また施設の老朽化に伴う不具合や修理改修も次々に発生し、思い切った施策の導入が困難であったのではないかと私自身も感じております。

さて、２期目の任期が満了しようとしている現在、町民の念願であった「瀬田分館」「関ヶ浜分館」の新設がなり、瀬田・関ヶ浜の皆さまに利用していただいております。

また「下水道圧送管」の敷設工事もほぼ完了し、今後は仮設管の撤去に取り掛かるところまでこぎつけております。

しかし「新型コロナウイルス感染症」の対応など、今も課題が山積の日々と拝察しております。中でも、喜ばしいことは、２年前 2019 年 4 月の連携型認定こども園「 和木町立和木こども園」の新設です。私たち議員一同の念願でもあり、日本の未来を創る子どもたちが、園庭いっぱいに走り回る姿を見て、私も心から幸せを感じております。

質問に移ります。先ほど述べました通り、大きな事故・災害やそれに伴う事業が続いた町長の任期中ですが、今振り返って２期８年の総括として施策の達成状況について、どのようにお考えですか。

議　　長　　米本町長。

米 本 町 長　　灰岡議員さんにこの質問をいただき、自分なりにこの２期７年半年の間のことを考えてみました。「私は何をしたのだろう？何ができたのだろう？」改めて考えてみたところでございます。

先程議員おっしゃられましたとおり、平成２５年の９月１９日に初登庁し、すぐに下水道圧送管の破損事故が発生をいたしました。翌年８月には「８.６岩国和木豪雨災害」が起こるなど本当に波乱の幕開けであったんだろうなというふうに思っております。その他にも水道管や各施設の老朽化に起因する不具合、それらの連続であったようにも思います。その後は幸運にも大きな災害には襲われませんでしたけども、公共施設のタイルが剥がれ落ちる等の、数々の不具合は現在においても続いております。また先程同僚議員からのご質問がありましたとおり、雨漏り等の公共施設の不具合も多々発生をしている状況でございます。

そんな期間中ではございましたが、公約でありました防災防犯カメラの設置や出産祝い金の復活なども行い、英語教育の強化はイングリッシュキャンプや英検の受験料として、ある程度できたものと思っているところでございますが、災害に強い町づくりや河川敷遊歩道の照明などは財政の関係で未着手、またはまだまだ足りない状況になっていると思っております。

特に災害に強い町づくりでは、役場施設の強化をあげておりましたが、多大な事業費がかかることから保留となっておりますが、圧送管の破損事故がなければな…と少し思う時もございます。

その他としては、予算こそ少ないものの、がんと闘う方に対してウイッグなどの補助を先駆けて出来た事はよかったのかなと思っております。

そして議員申されたとおり、現地建て替えを変更して建設いたしました「和木こども園」、また８.６豪雨災害で被害を受けた瀬田、関ケ浜の分館が無事完成したことは私も大変うれしく思い、今後は防災のみならず、地域のコミュニティーの核となってもらいたいというふうに期待をしているところでございます。

しかしながら、財政が段々と厳しくなり、人口減に歯止めがかからず、２０２５年問題を前に大きな財政改革に踏み込めなかったことは、自分自身、大変残念に思っているところでござ

います。

そしてここ一年は目に見えぬ敵、新型コロナにより多くの事業ができず、私の思考も、社会の情勢も止まったのではないかなというふうに感じた一年でございました。

しかしこの間、最も良かったと思えることは、議会の皆さまと議論をしながらも対立することもなく、良好な関係を維持でき、車の両輪として同じ方向に向かって一緒に努力し合えた事ではないかなというふうに思っているところでございます。

以上が私の７年半年あまりで感じた、達成したというふうに感じたところでございます。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　今の町長のお話の通り、決して穏やかな町政のかじ取りであったとは感じておりません。特に２期目の任期半ばには、「新型コロナウイルス感染症」の流行により、町政の推進に大きな波を受けました。

町は、町内の様々な業種及び児童・生徒・学生の為に対策事業として、給付金を創設しました。その他感染防止の為の施策を多々講じております。

次の質問です。今もなお続いております「新型コロナウイルス感染症」が流行する中、町政を円滑に進める為に、町長は何を大切に考えどう行動したのか、お尋ねします

議　　長　米本町長。

米本町長　議員ご質問のコロナ禍での町政運営でございますけども、コロナ感染症対策自体としては、町としてやれる事はそんなに多くはございませんでした。

第一波において最も困った事は、感染予防に対するマスク、消毒液、検温器などの資機材が全く手に入らず、皆さんにも、そして対応する職員にも苦労をかけたことではなかったかなというふうに思っております。

想定外とは言え、危機感をもって日ごろからの準備、備蓄などを十分にしておくことが大切なことは身をもって知ったところでございます。

先日の行政報告でも申しましたが、和木町では現在まで５名の方が感染をされておりますが、その方のプライバシー保護のため人数以外は町には一切の情報が来ません。これは大変困った事であり、まあ必要な情報はあとから来るとは思うんですけども、皆さんに自粛とうがい・手洗い、３密の回避をお願いするしかやることはできませんでした。和木町では幸いにも感染された方のご家族への二次感染はなかったことにより、短期休校などの措置をとることもございませんでした。

そんな中において最も懸念をしていたことは、やはり飲食店等への影響です。和木町には飲食店は決して多くはございません。その方々が難儀されているのはやはり一番気になったところでございます。ですから商工会に限って早く独自の支給を行ったのはスピード感をもってやったことであり、最も重視したところでございます。しかしながら、それに対するやはりご批判まではいかないですけども多少のお言葉をいただいたこともございましたが、一番難しいのはどこで線引きをするかであり、すべての方に平等に支給することはできませんでした。本当に苦しい方を助けるという事にしておりましたが、かといって苦しさの度合いを正確に把握する事は大変困難なことでございます。職員には大変苦労をかけてというふうに思っております。

また年末年始は保健相談センターを相談窓口としておりましたので、お正月を家族で過ごせなかった職員にも申し訳なく感謝をしているところでございます。

今後もこのコロナ対策におきましては、様々なケース、スピード感をもって対応していきたいというふうに思っているところでございます。

議　　長　灰岡裕美君。

灰 岡 議 員　コロナ禍の町政の舵取りの大変さ、伺いましたし、これはこれからもコロナウイルスが収束するまで続きます。収束しても続くと思います。コロナ禍の世界が変わりますので。私たちも議員一同、それに対して真摯に向き合い、そしてどう行動するのが一番よいのか、自分に問いかけながら過ごしていきたいと思います。

次の質問に移ります。

今年は山口県内１９市町のうち、８市町において市長選挙・町長選挙が施行されます。先ほどから述べております通り、本町でも今年９月に米本町長の２期８年の任期が満了いたします。

現在の町政について、先程来伺ってはおりますが、町長はどのように認識されどのように分析されておられますか、お伺いいたします。

議　　長　米本町長。

米 本 町 長　現在の和木町政について、なかなか言葉で表すのは難しいところではございますが。これからも人口減少や老朽化に起因する不具合はずっと続いていくと思っておりますし、加えてコロナウイルス感染症の影響で税収も見通せない状況が続くのではないかと思っております。その事によって一層財政の硬直化が進むものと考えておりまして、加えて人件費や物件費、社会保障関連の経費も増加していくなど一段と財政的には苦しくなってくるのではないかなというふうに思っております。

具体的には今後、仮の圧送管の撤去や給食センターの建て替え、簡易水道浄水場の改築・公会計の導入等大きな事業にも取り組んでいかなければなりません。金銭的にも、人的にも大変な時期が来てるなということも思っております。

しかしながら、それらはどこの市町村でも同じでありまして、今後町民の皆さん、議員の皆さん、私も含めた職員すべてが知恵と力を出し合って乗り越えていくしかないのかなというふうに思っているところでございます。

私は「小さくともきらりと輝る和木町を未来につなぐ」として町政維持を目標に施策を進めてまいりました。そのため皆さんの声を十分に取り入れることが出来ない事も多くあったと思います。しかし町民福祉を減退させず、大きな災害や大型修繕などもありましたが、財政調整基金も大きく減らすことなく、また先程ご質問がありました幼稚園や保育所などの土地資産も増えております。しかし、公債費も増えていることから、手放しで喜べる状況ではございませんが、そんなに和木町の状況は悪い方ではないのではないかというふうに希望をもっているところでございます。

以上が私の町政の現状認識というふうなところでございます。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　大変困難な世間の情勢、その中でまた困難な町政の中、町長の前向きなお考えをいただきました。私たちも明るい気持ちで推進役となって向かいたいと思っております。

次の質問です。

単刀直入にお伺いします。

米本町長は、引き続き、和木町のリーダー、推進役として本年８月に行われる町長選挙に立候補する意向はありますか、お伺いします。

議　　長　米本町長。

米本町長　今後も町政を担う考えがあるかとのご質問でございます。

これまで７年半年、町政を預かってまいりましたが、色々なこともございましたが、概ねクリアをしながら、なんとかやってこられたのではないかというふうに思っております。これは外から入りました私にとっては、自分自身奇跡に近いことではないかなというふうに思っております。これらのことは、ひとえに町民の皆さまのご理解と、議員の皆さんのご協力、そして

私のような町長を粘り強くささえてくれた職員のお陰であると心から感謝をしておるところでございます。

私は、３８歳で町会議員に立候補し、５３歳で町長に就任して以来、私も還暦を過ぎ、体力的な減退を感じているところでございます。また私の感覚と皆さんとの感覚が少しずれていると感じたことも多くありました。そんな中で、一度は若い方で政治センスの長けた方がいらっしゃれば、担ってもらった方が良いのではないかと考えたこともございました。

しかしながら、先ほどの仮圧送管の撤去工事、そして給食センターの建て替えの方向性など、しっかりと取り組まなければならないことも多くあり、そして何よりこのコロナ禍にあって、なかなか難しい先が見通せないワクチン接種が始まり、ウィズコロナ、アフターコロナに取り組んでいかなければならない大切なこの時期に、職を投げ出す事は出来ない、許されないというふうに感じました。

私自身決して町長職に固執をしているわけではございませんが、町民の皆様のご支持が頂けるのであれば、今年８月の町長選挙に立候補させて頂きたいと考えております。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　町長の決意を伺った上で最後の質問にまいります。

２期８年に渡り、和木町のリーダーとして様々な経験をして来られたことと思います。

その上で、和木町の将来に対する課題や未来へのビジョンがありましたらお尋ねします。

議　　長　米本町長。

米本町長　将来に向けてのビジョンということでございます。

実は、直前までこの町長立候補の事につきまして悩んでおりましたところもありまして、先ほど言ったとおり、現在では明確なビジョンを持って立候補を表明したわけではございませ

ん。これはやはり再来年度からの米軍再編交付金の延長等がどうなるのか、またワクチン接種が進み、コロナ感染拡大がどうなるのかが、ある程度見えてきた状況にならなければ、私自身はっきりと決断をできることはございませんし申し上げる事もあまりありません。しかし、もし私が次期町政を担う事になれば、この和木町の現在の施策をしっかりと未来につなげていけるよう努力をしてまいりたいと思いますし、そしてこれまで予算の都合、またいろんな事で手があまり回っておりませんでしたソフト面、ハード事業を進めながらも文化面などソフト事業に力を注いでいければなというふうに考えているところでございます。

議　　長　灰岡裕美君。

灰岡議員　現在抱えておられます様々な課題が、解決の方向性が見えた上でその機会がありましたら町長に質問させていただきたいと思っております。

私自身、８年前に米本町長が誕生される際の町議会議員補欠選挙で議席をいただきました。

先ほども述べましたが、直後に起きました平成２５年１１月の大竹圧送管破損事故、翌年の岩国和木豪雨災害等により、議席の重みを強く感じました。

もちろん町長の重責を思うと、それどころではない大変な日々の積み重ねであったと推察いたします。

これからのコロナ後の和木町、２０２５年問題が間近に迫っている和木町にとって、人口問題も町の存続に繋がる大きな課題です。

これからも、町政には決断の日々が続くのではないでしょうか。

町長の決断に、町民の生活が委ねられています。私たち議員も同様の決意で臨みます。

以上で質問を終わります。

議　　長　再質問がないようですので、灰岡裕美君の一般質問を終わります。

議　　長　以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

議　　長　本日はこれで散会したいと思いますが、ご異議はありませんか。

（「なし」の声あり）

議　　長　異議なしと認めます。

議　　長　本日はこれで散会いたします。

閉　　会　　１０時　３３分